

朝日ヶ丘公民館だより 6・7月号

TEL 043(272)4961 FAX 043(271)6994 ✉ asahigaoka@ccllf.jp

「つどい まなび つなぐ ～地域の皆様に愛される 地域主体の公民館をめざして～」

「立場の認識」

館長 長谷部 芳彦

千葉県小学生陸上大会の運営にかかわっていた時、この小学生の大会に電計システム（コンピュータを使って計時する）を導入するための準備として、国立陸上競技場に学びに行ったことがありました。世界選手権で上位に入賞した選手だけが招待されるTOTO陸上競技大会で、実際にどのような機具を使い、記録しているのかを学ぶものです。

VIP待遇となるIDカードを胸につけ、関係者しか入れない記録室を中心に研修しました。また、関係者しか行くことのできない選手控え場所、競技場所に案内していただきました。それぞれの場所に立つ警備員は私のつけたIDカードを見ると敬礼し、道を開けてくれました。なんだか偉くなったような気がしてきて、決して嫌な気分ではありませんでした。（正直いい気分でした。）

最後の見学場所を後にして、IDカードを返却し、競技場を出ました。そのとき忘れ物があったことに気づき、戻ろうとしました。しかし、今さっき敬礼をして送り出してくれた同じ警備員なのに、IDカードをつけていない私は中に入れてもらえませんでした。警備員としてはごく当然のことでしょう。警備員は私に敬礼をしていたのではなく、IDカードをつけていた私に敬意を払ってくれたのです。競技場の外でしばらく待たされましたが、忘れ物は無事に届けられました。

この時、このことを「気をつけなくてはいけないな。いつまでも忘れてはいけないな」と強く思いました。「自分」と「自分について役職・立場」を勘違いしないようにしないと、「役職や立場」に胡坐をかき、ものを考えたり、言ったりしてしまうと感じています。

私たち公民館職員は、ご利用される方々が納得してくださる関わり方をしなければならぬと考えています。このことを日頃から意識し、気をつけていかないと、いつも一番に、中心に置いて考えなくてはならないご利用者が二の次になってしまいます。

私たちは私たちなりにご利用者を第一に考えているつもりです。しかし、それがご利用者の皆様の理解を得られなければ、やはり「配慮が足りなかった」ということになってしまうのだと思います。

日常の業務の中で何かお気づきの点があれば遠慮なくお伝えください。